

三條市



三條市醜ビル NO.1

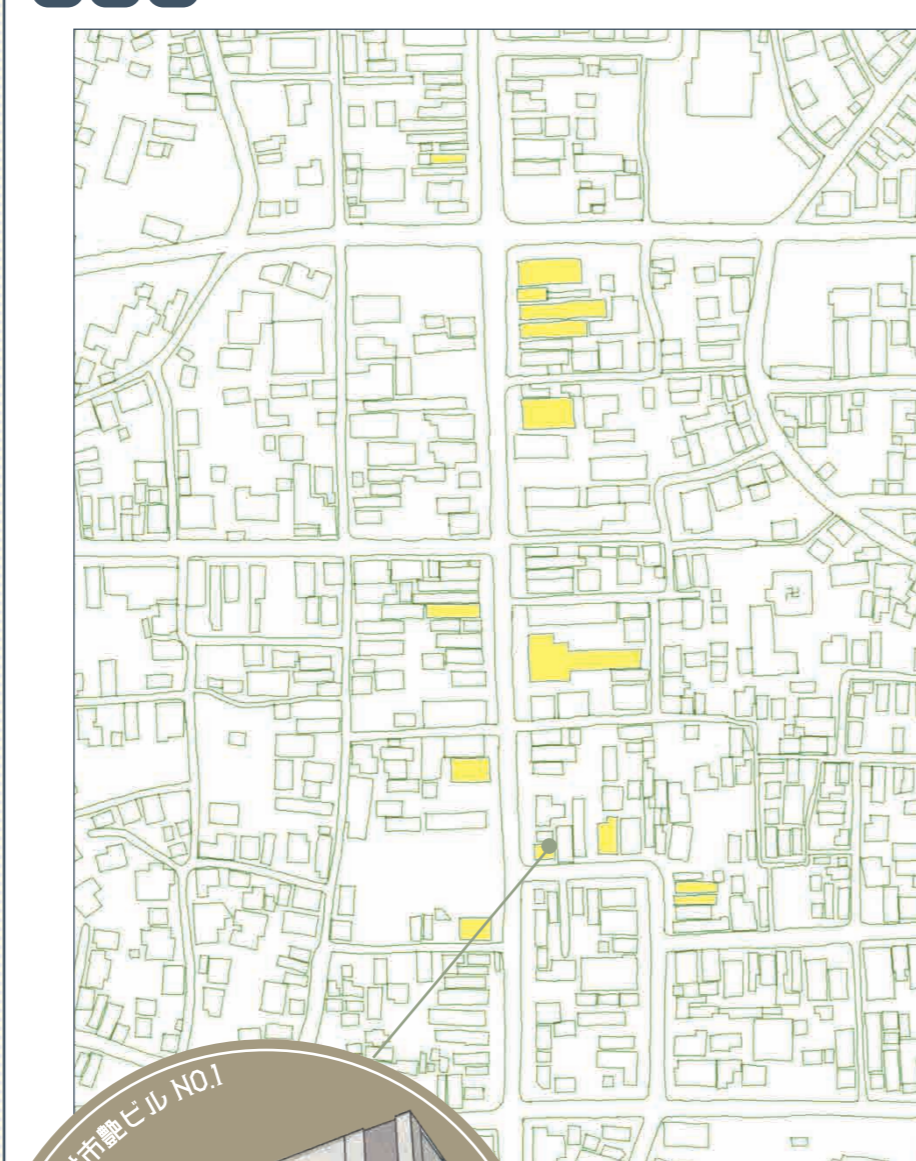
◆基本情報
 ・場所：三條市本町
 ・ビルタイプ：正面ビル
 ・外壁と窓：ポツ窓
 ・階数：3階

このビルは、駅前通りに位置するポツ窓ビルである。駅前通りを挟んで向かい側には「佐藤歯科医院」がある。1階の床はタイル貼りの上から吹き付けられている。

このビルは1970年代に竣工されたものと推測する。全体的なデザインは、水平に長い窓のポツ窓で、縦向きと茶色を基調にした可算らしいビルである。窓の隙を、太いコンクリートで盛り上げて、窓の存在を強調している。ポツ窓の窓が、水平に長い窓が連続している配置により、水平連続窓のような印象を受ける。サッシ自体はアルミになっており、緑のコンクリートの角がアルミになっている。このようなアルミを使ったデザインは、1970年代のビルの特徴の一つである。

サッシは材が太めのアルミサッシ。さらに、1階の床タイルは、小口アルミの目地の太い施工から、1980年以前のものと推測した。

見附市



見附市醜ビル NO.1

◆基本情報
 ・場所：見附市新町
 ・ビルタイプ：正面ビル
 ・外壁と窓：ポツ窓
 ・階数：4階

このビルは、三河街道通直り沿いの交通命に建っているビルである。1階の床は、タイル（コンクリート）という新しい材料が入っている。

このビルは1970年代に竣工されたビルと推測する。全体的なデザインは、ポツ窓の連続したデザインである。サッシは、角丸のカラーサッシで、PCパネルによって構成されている。角丸サッシがついたPCパネルは長岡に調査によると、1970年代から増加し始めている。

このような要素から、1970年代に竣工されたのではなかったかと考えた。

新発田市



新発田市醜ビル NO.1

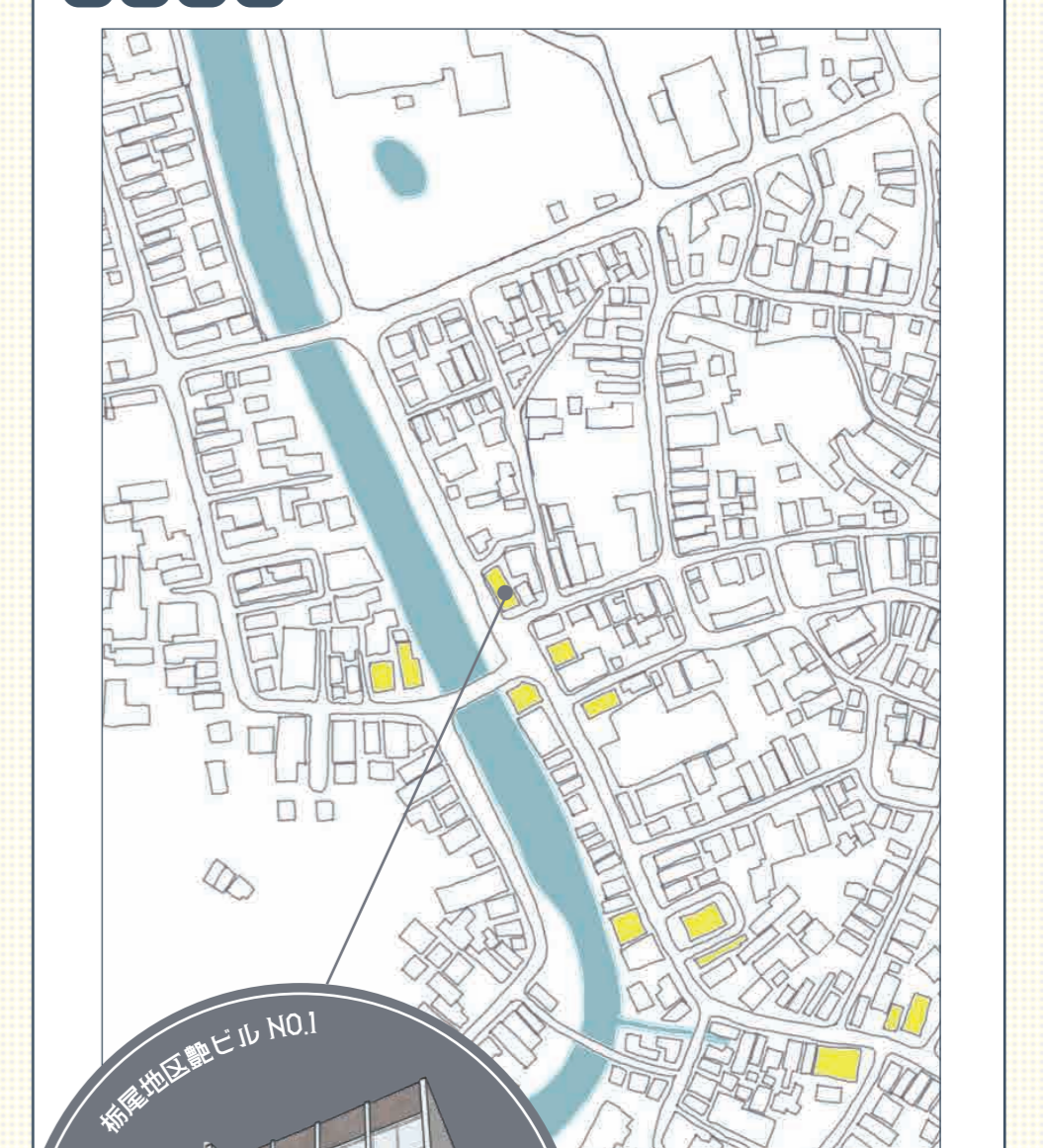
◆基本情報
 ・場所：新発田市本町
 ・ビルタイプ：正面ビル
 ・外壁と窓：連続水平窓
 ・階数：2階・3階

このビルは、新発田駅前から続く大通りに沿って位置するビルである。このビルは、地方都市の中心市街地によく見られる形だ。

このビルは1980年代に竣工されたビルと推測する。外壁のモザイクタイルを、アルミのコンクリートで覆っているのが特徴的なビルである。モザイクタイルは色むらのある陶業タイルで、緑、青を基調としており、名古屋市の市産連立（1983）のタイルの色に似ている。

このような新鮮な色味のタイルは、1980-90年代によく見られるタイルであり、一般に竣工年代を把握することは難しい。タイルの大ききや目地にずれがあったため、1980-70年代と推測した。窓は、中核のある窓で、縦が上下の窓をつないでいるのが特徴的なアルミサッシの窓である。アルミの素材そのままのサッシで、材が太いため、1980年代以前のもものと推測した。

裾野地区



裾野地区醜ビル NO.1

◆基本情報
 ・場所：裾野本町
 ・ビルタイプ：正面ビル
 ・外壁と窓：水平連続窓
 ・階数：4階

これは、裾野支所の大南橋東側の交差点に建っているビルである。このビルは旧国道沿線、現在は「とちビル」に移転している。

このビルは、1980年代に竣工されたビルと推測する。全体のデザインは、連続水平窓とタイルの連続的なデザインである。タイルは目地の太い施工で色むらのある陶業タイル。サッシは材が細いアルミサッシである。このような特徴からこのビルは1980年代に竣工されたものではなかったかと推測できる。

色むらのある陶業タイルと連続水平窓が特徴的。目地の汚れが残り、タイルが剥がれかかっているように見える。サッシは、ファサードと地盤板がある。「工」が特徴的な丸型の明細で、「脚」になっているところからも時代を感じる。

醜ビルカタログ



このカタログは、醜ビルの魅力を伝えるためのツールとして作成された。各ビルの写真、基本情報、特徴的なデザイン要素が紹介されている。

▼カタログの中身一部



この部分では、カタログの具体的な構成要素が示されている。写真、説明文、図解などが組み合わさって、ビルの魅力を伝えている。

醜ビルの定義

「醜ビル」は、一般的に「醜い」として認識されるビルを指す。しかし、本研究では、その背後にある社会的・文化的背景を考察し、その価値を再評価することを目的としている。

醜ビルの定義は、その外観やデザインだけでなく、その存在意義や地域との関係性を重視する。醜ビルは、単なる「醜い」だけでなく、「面白い」「懐かしい」「思い出深い」など、多岐にわたる感情を喚起するものである。

醜ビル模型



この部分では、醜ビルの3Dモデルが紹介されている。モデルを通じて、ビルの立体的な特徴や空間的な構成を視覚的に理解することができる。

醜ビルの考察

古いビルの解体の背景にある原因として、ビジュアルギャップの狭さから文化的価値を見出しにくいことが考えられる。そこで、現代のビルと比較することで違いを明確にする。さらにこれまでの調査考察を踏まえて、次の3つの項目から、醜ビルの定義について考察し、着眼点を明確にする。

◆ビルタイプ：ファサードから見たビルのつくり、大きな分類。
 ◆建材：ビルの外観を構成する要素である。
 ◆様式：一般的な建築史による様式変化とよって建つビルの建築様式。

ビルの考察は、その外観やデザインだけでなく、その存在意義や地域との関係性を重視する。醜ビルは、単なる「醜い」だけでなく、「面白い」「懐かしい」「思い出深い」など、多岐にわたる感情を喚起するものである。

醜ビルの定義

「醜ビル」は、一般的に「醜い」として認識されるビルを指す。しかし、本研究では、その背後にある社会的・文化的背景を考察し、その価値を再評価することを目的としている。

醜ビルの定義は、その外観やデザインだけでなく、その存在意義や地域との関係性を重視する。醜ビルは、単なる「醜い」だけでなく、「面白い」「懐かしい」「思い出深い」など、多岐にわたる感情を喚起するものである。

醜ビルの考察

古いビルの解体の背景にある原因として、ビジュアルギャップの狭さから文化的価値を見出しにくいことが考えられる。そこで、現代のビルと比較することで違いを明確にする。さらにこれまでの調査考察を踏まえて、次の3つの項目から、醜ビルの定義について考察し、着眼点を明確にする。

◆ビルタイプ：ファサードから見たビルのつくり、大きな分類。
 ◆建材：ビルの外観を構成する要素である。
 ◆様式：一般的な建築史による様式変化とよって建つビルの建築様式。

醜ビルの考察

古いビルの解体の背景にある原因として、ビジュアルギャップの狭さから文化的価値を見出しにくいことが考えられる。そこで、現代のビルと比較することで違いを明確にする。さらにこれまでの調査考察を踏まえて、次の3つの項目から、醜ビルの定義について考察し、着眼点を明確にする。

◆ビルタイプ：ファサードから見たビルのつくり、大きな分類。
 ◆建材：ビルの外観を構成する要素である。
 ◆様式：一般的な建築史による様式変化とよって建つビルの建築様式。

目立たない「建物」の行方

醜ビルは、単なる「醜い」だけでなく、「面白い」「懐かしい」「思い出深い」など、多岐にわたる感情を喚起するものである。その価値を再評価し、地域活性化に貢献させることが今後の課題である。

目立たない「建物」の行方

醜ビルは、単なる「醜い」だけでなく、「面白い」「懐かしい」「思い出深い」など、多岐にわたる感情を喚起するものである。その価値を再評価し、地域活性化に貢献させることが今後の課題である。

目立たない「建物」の行方

醜ビルは、単なる「醜い」だけでなく、「面白い」「懐かしい」「思い出深い」など、多岐にわたる感情を喚起するものである。その価値を再評価し、地域活性化に貢献させることが今後の課題である。

地域の設計者としての醜ビル

醜ビルは、地域の歴史や文化を伝える重要な役割を果たしている。設計者は、醜ビルの魅力を最大限に引き出し、地域活性化に貢献させるべきである。